

## 27年6月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成27年6月1日～ 27年6月10日

## 2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
6月分の回答企業数は7社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		27/6月	7月	8月
入荷動向	スギ	0.0	0.0	0.0
	ヒノキ	0.0	△ 25.0	△ 25.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	33.3	33.3	0.0
消費動向	スギ	0.0	△ 20.0	△ 20.0
	ヒノキ	25.0	△ 25.0	△ 25.0
	カラマツ	0.0	△ 20.0	△ 20.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	0.0	20.0	20.0
	ヒノキ	0.0	0.0	0.0
	カラマツ	0.0	20.0	20.0
	トドマツ	50.0	0.0	0.0

・スギ及びカラマツ原木の入荷は3ヵ月連続して横ばい、ヒノキは6月の横ばいが7月、8月は減少、トドマツは6月、7月の増加が8月は横ばい。

・スギ及びカラマツ原木の消費は6月の横ばいが、7月、8月は減少、ヒノキは6月の増加が7月、8月は減少、カラマツは3ヵ月連続して横ばい。

・スギ及びカラマツ原木の在庫は6月の横ばいが7月、8月は増加、ヒノキは3ヵ月連続して横ばい、トドマツは6月の増加が7月、8月は横ばい。

## (2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	27/6月	7月	8月
スギ	0.0	0.0	0.0
ヒノキ	0.0	0.0	25.0
カラマツ	0.0	20.0	20.0
米マツ	0.0	0.0	25.0
北洋カラマツ	0.0	0.0	25.0
その他	100.0	100.0	100.0

・スギ原木価格は3ヵ月連続して横ばい、ヒノキは6月、7月の横ばいが8月は強含みに、カラマツは6月の横ばいが7月、8月は強含み。

・米マツ及び北洋カラマツは6月、7月の横ばいが8月は強含みに。その他は強含みで推移。

## モニターからのコメント

## (原木荷動き)

・生産に合わせて入荷。消費はほぼ横ばい。在庫は変化なし。  
・カラマツが慢性的に入荷難。生産調整継続。  
・原木土場が満杯に近く、消費分しか入荷できない。製品市況が回復せず、原木消費量は横ばい。原木在庫が多いものの消費分は入荷に努める。  
・概ね横ばいも、市況低迷と梅雨の影響で出材減の可能性あり。消費は低位横ばい。市況、天候を考慮しながら在庫維持。  
・計画通り入荷。生産品種によりヒノキ材の消費割合が多少増加、生産減により先月(4月)より在庫1割増。  
・ヒノキ丸太の入荷は7～8月は害虫防止のため制限する。消費は製品の荷動きに合わせて調整中。ヒノキ丸太は、7～8月入荷減により在庫は減少。

## (原木価格)

・スギ、カラマツ変化なく横ばい。  
・国内現状横ばいだが、バイオマス等との絡み出てきそう。  
・外材の現地価格は下落しているものの、5月以降の円安の進行で購入価格は吸収されてしまっている。  
・国産カラマツは産地限定されるため引合い多い。他樹種は梅雨時期で相場弱含みもバイオマス需要も増加傾向の中、盆明けより強含む気配あり。外国産は為替の影響もあるが、横ばい～強含む状況変わらず。  
・現状横ばい、6月後半、7月値下がりもあり得る。  
・国産材は6月まで値下げした。7月以降は横ばいで維持する。

## 27年6月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

## 4. 調査結果の概要

## (1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		27/6月	7月	8月
生産動向	構造用(9mm)	0.0	△ 20.0	△ 20.0
	〃 (12mm)	△ 42.9	△ 16.7	△ 16.7
	〃 (15mm)	△ 28.6	△ 16.7	△ 16.7
	〃 (24mm)	△ 28.6	△ 16.7	△ 16.7
	〃 (28mm)	△ 42.9	△ 16.7	△ 16.7
出荷動向	構造用(9mm)	16.7	20.0	20.0
	〃 (12mm)	△ 28.6	16.7	16.7
	〃 (15mm)	△ 14.3	0.0	16.7
	〃 (24mm)	△ 42.9	0.0	16.7
	〃 (28mm)	△ 28.6	0.0	16.7
在庫動向	構造用(9mm)	△ 20.0	0.0	0.0
	〃 (12mm)	16.7	0.0	0.0
	〃 (15mm)	16.7	0.0	0.0
	〃 (24mm)	50.0	0.0	0.0
	〃 (28mm)	33.3	20.0	0.0

・合板の生産は、9mm合板の6月の横ばいを除いて全てで3ヵ月連続して減少。

・合板の出荷は、9mmの合板は3ヵ月連続して増加、12mmは6月の減少が7月、8月は増加、15mm、24mm及び28mmは6月の減少が7月は横ばい、8月は増加。

・合板の在庫は、9mmの合板が6月の減少が7月、8月は横ばい、12mm、15mm及び24mmは6月の増加が7月、8月は横ばい、28mmは6月、7月の増加が8月は横ばい。

## (2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	27/6月	7月	8月
構造用(9mm)	△ 50.0	0.0	20.0
〃 (12mm)	△ 71.4	△ 33.3	16.7
〃 (15mm)	△ 57.1	△ 16.7	16.7
〃 (24mm)	△ 71.4	△ 33.3	16.7
〃 (28mm)	△ 57.1	△ 16.7	16.7

・合板出荷価格は、総じて6月及び7月の弱含みが、8月は強含みに。

## モニターからのコメント

## (合板荷動き)

- ・12mm～28mmを多少減らして、非構造用を生産。相場弱く、価格下落により客先は当用買いに徹している。出荷減少した分在庫増になった。
- ・生産調整を継続し需給調整へ。月を追うごとに動き出してきて、今後更に活発になる。今後の需要増にて在庫減に。
- ・減産中で、いつまで続くか予想がつかない。24mmの在庫が増加予想。
- ・少量のため概ね変更なし。
- ・販売減で減産体制継続。出荷は生産量に対し75%程度、6月後半まで減少傾向にある。先が見えない。在庫は先月より1割増、減産しているものの販売が伸びない状況。
- ・荷動きなく在庫増が予想されるため生産調整行う。在庫増とならないよう生産分は販売したい。需要なく当用買い、徐々に在庫増。

## (合板価格)

- ・全品目相場弱く下落している。プレカット工場は、徐々に仕事量増えて来ているが、工場により差が大きい。
- ・現状、価格コスト割れ今後見直しへ。
- ・各製品下落の予想。
- ・動きが悪い中での一部下げ相場。2～3ヵ月には状況鑑みて反転する予想。
- ・最安値が続いている、歯止めがかからない状況。
- ・荷動き悪く、他メーカーの値戻しなく、問屋は下値を警戒しながら当用買い、価格はそのまま維持したい。